

新春作品展

西大井四丁目町会

毎年恒例の新春作品展が2月9日(土)～10日(日)に行われました。

西大井四丁目町会会館内に展示された作品は、子どもたちや高齢者を中心にした発表と鑑賞の場となっています。

幼稚園児から小中学生、90歳以上のベテランまで約60人が、書・絵画・写真・手芸・工芸・生け花等の力作を、また、子どもたちは、かわいい人形、紙粘土で作ったパン屋さん、レゴブロックの戦車、一生懸命書いた書や絵等、楽しい作品が揃っていました。

これらの作品を町会の役員の方々がきれいに工夫して飾って下さり、作品展に足を運んでいただいた方には、お茶とお菓子でもてなして下さり、子どもたちには折り紙を教える楽しませ、誰もが気軽に町会に参加していただけるよう努力を重ねています。小学5年生の児童が参加賞をいただき、「また来年も出品します。」と言って嬉しそうに帰りました。

この行事が長く続く事を願います。

(熊田 記)



鹿島神宮と香取神宮へ行ってきました！

大井鹿島町会

大井鹿島町会の今年最初の日帰りバス旅行は鹿島アントラーズの本地地にあり、古来より伊勢神宮に続く格式である「鹿島神宮」と「香取神宮」です。鹿島神宮は我が鹿嶋神社を含めて全国約600社の鹿島神社の総本社であり、香取神宮は約300社の総本社だそうです。

平成31年1月15日早朝総勢35名のバスは利根川の両社目指して出発、高速道路に入ると新春の乾杯をあげ、バスガイドさんの説明で両社が東国武者の出陣祈願所であり、鹿島神宮本殿は徳川秀忠の寄進／奥宮は家康の寄進等の説明を聞きました。到着し先ずその広大な敷地(27万坪)に驚き、また鹿島の名の通り古くに日本鹿が多数生息(今は飼育)、奈良へも寄進されたとのこと、塚原ト伝の誕生地でもあり武士の輩出地であること等の史跡を見ながら境内散策を楽しみました。次にバスは銚子漁港へ向かい、美味しい魚料理の昼食に舌づつみを打ちました。(食べ残しがない昼食は町会旅行で初めてです)

そして午後のスケジュール、門前町を抜けて、長い登り坂の先に香取神宮の美しい本殿・拝殿が見えてきました。天下太平の三本杉、多数の合格祈願の絵馬奉納を見て初詣気分を満喫しました。

バスは最後に道の駅「水の郷さわら」に立ち寄りお買い物タイム、そして渋滞のない東関道を予定より早く抜け、無事に鹿嶋神社前に帰ってきました。参加した皆さんニコニコ笑顔でとても満足された様です。(小林 記)



節分の豆まきと恵方巻の豆知識

「節分」とは元々立春・立夏・立秋・立冬の前日の日のことで年間4回ありました。

しかし、平安時代になると特に、立春が1年の始まり元旦でしたので、その前日の大晦日に邪気(鬼)を追い払っておき、新しい年を迎えようと、鬼を追い払う力を持つと考えられていた穀物(豆)を撒いて鬼はらいの行事を始めました。(この起源は中国から伝わったとの説もあります)これが節分の豆まきの始まりであり、立春の前日のみを節分と言うようになりました。暦では2月4日が立春ですから、その前日2月3日が節分の日にあたり神社・寺院・各家庭で豆まきが行われます。毎年大井6丁目の鹿嶋神社では境内の能舞台から年男・年女が「福は内」の掛け声とともに大量の豆まき(袋入り)を行います。(北海道産大豆とのことでとても美味しく焼かれた豆です)今年も善男善女多数が境内に集まり盛大に行われました。

今年の恵方は東北東です。節分の日恵方巻と言われる海苔巻きを、その年の恵方である方向を向いて包丁で切らず無言で食べると幸運がくるとのこと風習です。これは大正時代に関西から始まり近年関東地方でも盛んに行われるようになってきました。一説によると関西の海苔業界が海苔の拡販のために力を入れて広まり、関東では食品スーパーが恵方巻拡販のために力を入れ広まっているとも言われています。

(小林 記)



しなQ



品川区出身の真琴つばさんは、宝塚歌劇団時代、何組だったのでしょうか？

- ①花組 ②月組 ③雪組
- (正解は次号で！)

(倉田 記)